モアイは語る——地球の未来(4)

安田 喜憲

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

序論（導入と問題提起）

1・2

導入 モアイの説明

問題提起 ①誰がモアイを作ったのか。
②どうやってモアイを運んだのか。
③なぜモアイは突然作られなくなったのか。
④モアイを作った文明はどうなったのか。

本論（イースター島の歴史とモアイの秘密）

3〜6

問い① 誰がモアイを作ったのか。

答え① 西方から島伝いにやって来たポリネシア人。

（根拠）墓の中の化石人骨の分析。栽培作物の分析。

- 五世紀頃……ポリネシア人が初めてやって来る。
- 十一世紀頃…モアイの製造の開始。人口の急増。
- 十六世紀……人口が一万五千〜二万に達していた。

7〜10

問い② どうやってモアイを運んだのか。

モアイを運ぶには木のころが必要だが、現在のイースター島には森がない。

しかし、調査の結果、イースター島の五世紀頃の土の中からヤシの花粉が大量に発見され、かつて島がヤシの森に覆われていたことがわかった。

答え② ヤシの木をころとして使い、モアイを運んだのだろう。

問い③ なぜモアイは突然作られなくなったのか。

花粉分析の結果、七世紀頃からヤシの花粉の量が減少し、イネ科・タデ科の草の花粉と炭片が増加していることがわかった。これはヤシの森が消滅していったことを物語っている。人口の増加やモアイの製造で、ヤシが伐採されたのだろう。

11・12

答え③ 森が消滅し、海岸までモアイを運ぶことができなくなったのだろう。

13〜15

問い④ モアイを作った文明はどうなったのか。

森が消滅して豊かな表層土壌が雨で流失し、主食の栽培が困難になった。木がないために船が造れず、たんぱく源の魚を捕ることもできなくなった。

答え④ 食料危機や部族間の抗争で十七世紀後半から十八世紀前半にイースター島の文明は崩壊した。

（根本的原因） 森の消滅

結論（地球の未来）

16〜20

イースター島の運命と私たち

森林は文明を守る生命線である。現代の人口爆発ではかつてのイースター島以上の人口増加が起こっており、食料生産のためにこれ以上森林を切り開けば、食料不足が恒常化するおそれもある。

主張 有限の資源を、効率よく長期にわたって利用する方策を考えなければならない。

（1〜20は教科書本文における形式段落番号を表します）

確認テスト 教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 五世紀頃、イースター島にポリネシア人がやって来て、同じ頃モアイの製造が始まった。

イ 十一世紀頃には、人口の増加によってイースター島のヤシの森は消滅していた。

ウ 十六世紀には、イースター島の人口は一万五千から二万に達していた。

エ 十七世紀後半から十八世紀前半にかけて、イースター島の人口は急増した。

〔　　〕

(2) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア イースター島の墓の中の化石人骨の分析や栽培作物の分析から、モアイを作ったのはポリネシア人であることがわかった。

イ 五世紀頃の土の中からヤシの花粉が大量に見つかり、イースター島にポリネシア人が初めて移住した時期がわかった。

ウ 七世紀頃からヤシの花粉が減少していることにより、同じ頃にイースター島でモアイの製造が始まったとわかった。

〔　　〕

(3) 本文の内容に当てはまらないものを選びなさい。

ア イースター島は、食料危機が起こり部族間の抗争が頻発(ひんぱつ)する中で文明が崩壊してしまった。

イ イースター島の文明が崩壊してしまった根本的な原因は、森が消滅してしまったことである。

ウ 現在、世界の総人口は少子化によって減少しており、食料や資源が不足する危険性はない。

〔　　〕